

## 1. 応募の動機・理由

本校では住生活授業は、「高齢者」、「防災」の各内容と関連付けて行っている。指導にあたっては、生活する人の行動や気持ちを具体的にイメージさせ、快適で安全な住まいについて、実感を伴った課題解決学習となるよう心がけている。本年度の中学5年生（高校2年生）は、中学3年生時の総合的な学習の時間に、SDGsの目標「住み続けられるまちづくりを」をテーマに調べ学習を行い、誰もが暮らしやすく環境にもよい未来のまちを展示発表している。そこで、その経験も生かしながら、高齢者と共によりよく生きる視点で、高齢者が暮らしやすい住まい・まちについて学ばせたいと考えた。体験学習や調べ学習により、生徒が主体的に学べる授業を工夫していきたい。

## 2. 学習予定の概要

### A. 中心となる活動

本授業の中心となる活動は、冬期休暇課題とする調査活動と、課題解決学習である。

#### (1) 調査活動

調査内容は、身近な高齢者にインタビューをすることおよび、住まいやまちの中の工夫を調査することの2点である。インタビューは、生活の中で高齢者が困っていることや不自由を感じていることの実態をつかむことを目的とする。また、住まい・まちの調査は、高齢者が生活しやすくするために実際に施されている工夫について、写真等で情報を集める。これらの調査結果は、高齢者の心身の特徴理解や課題解決の手がかりとして活用させる。

#### (2) 課題解決学習

高齢者が暮らしやすい住まいの学習では、漫画「サザエさん」の磯野家を題材とし、20年後に高齢となった波平・舟が安全で快適に生活できる住空間を考えさせる。ICTを活用し意見交換をさせる。

高齢者が暮らしやすいまちについては、高齢者へのインタビューの結果から、道路、店舗、駅、病院、乗り物等の場所別に高齢者が困っていることや危険を感じたことを整理し、実際に施されている工夫の写真を参考にしながら、さらにどのような工夫があるとよいかをグループで考えさせICTを活用して発表させる。

### B. 授業のねらいと特徴

本授業の狙いは、高齢者が暮らしやすい住まい・まちについて、高齢者の心身の特徴を理解し、住まいやまちの工夫を考えることである。ここでは、高齢者の身体的特徴理解と心理的特徴理解に分けて、住生活向上の学びにどのようにつなげるかを述べる。

#### (1) 身体的特徴理解

高齢期は身体機能の低下により家庭内外での事故が起きやすくなる。そして、事故により大怪我につながったり命を落としたりするケースも少なくはない。生徒には、高齢になると足を上げづらくなることや、視野が狭く見え方が低下することなどの身体的な機能低下を、資料や疑似体験により理解させる。その上で、高齢者にとって安全で生活しやすい住まい・まちにするためにはどんな工夫をすればよいかを、ユニバーサルデザインにも触れながら考えさせたい。

#### (2) 心理的特徴理解

本授業では、高齢者が暮らしやすい住まい・まちを高齢者の身体機能面からだけでなく、心理面からも考えさせたい。そのための工夫には次の2点がある。1つ目は、高齢者へのインタビューにより生の声を知ることである。高齢者が実際に感じている動きづらさや見えづらさを知ること、疑似体験での高齢者心理の理解が一層深まるであろうと思う。2つ目は、高齢者が暮らしやすい住まいやまちを考える際に、高齢者の気持ちを意識させることである。住まいやまちが安全で快適な場所であれば、高齢者は毎日安心して生活できるだけでなく、行動範囲が広がり楽しみを持ちながら自立した生活が送れることを理解させたい。また、ハード面だけではなく、高齢者と自分たち高校生も含む周囲の人々が共によりよく生きるためのまちづくりについても考えさせたい。

### C. 学習の流れ（指導計画）全5時間

本授業は、第1次「高齢者の心身の特徴を知ろう」（1時間）、第2次「磯野家をリフォームしよう」（1時間）、第3次「高齢者が暮らしやすいまちを提案しよう」（3時間）の計画で実施する。

#### (1) 高齢者の心身の特徴を知ろう

この授業は、聞き取り調査の結果の共有や高齢者疑似体験から、おもに加齢による身体的機能の変化を理解させるものである。まず、聞き取り調査項目のうち、体の動かしづらさに関連する内容をグループで意見共有し、まとめて発表させる。その後の体験では、指先の巧緻性（利き手と反対の手での筆記、ボタン掛け、はしの使用）、足の筋力低下（足首に重りを装着して歩行）、視界・視力の低下（特殊メガネの装着）を実施する。ワークシートには、身体がどのように動かしづらかったかを詳しく記録させるとともに、その時どんな心境になったかを記入させ、高齢者の心理についても理解させる。指先の巧緻性については、高齢者が食事をしやすい食器や着用しやすく工夫された衣服があることを伝え、バリアフリーやユニバーサルデザインの意味と具体的事例にも触れる。

#### (2) 磯野家をリフォームしよう

この授業は、20年後の磯野家で波平・舟が暮らしやすいように、住まいのリフォームを考えさせる授業である。ここではまず、高齢者に家庭内事故が多く、大怪我や死亡事故にもつながることをおさえる。また、椅子座・床座の生活様式が高齢者の生活しやすさに関係していることを理解させる。さらに、波平と舟それぞれのリフォームへの願いを提示し、家庭内で過ごすことが多くなる高齢者が楽しみながら生活できる住まいという視点からも考えさせる。生徒が冬期休暇課題で調べてきた住まいの中の工夫を参考にさせながら、磯野家の間取り図のどこをどのようにリフォームすれば、波平と舟が安全で快適に生活ができるかを各自で考えたあと、グループで意見をまとめて発表させる。(ICT活用)

#### (3) 高齢者が暮らしやすいまちを提案しよう

(1 時間目)インタビューで得た情報を出し合いながら、高齢者がまちの中で困っていることや危険を感じたことなどを理解する。各自が調べてきたまちの中で見られる工夫例をグループで意見交換し全体に発表する。(ICT活用)発表を聞いた後、グループごとにテーマを決める。

(2 時間目)各グループでテーマに沿って意見を出し合い、考えたことをプレゼンテーション用にロイロノートのシート数枚にまとめる。高齢者の心身の特徴理解で学習したことを思い出させながら、暮らしやすいまちを考えさせたい。

(3 時間目)グループで考えた暮らしやすいまちを発表し、各グループの発表を聞いて自分の考えをまとめる。高齢者に優しい住環境は誰にとっても生活しやすいものであることを理解させ、ノーマライゼーションの理念についても触れる。

### 3. 授業とガイドライン「住教育の領域」との関わり

本授業のうち2時間目の「磯野家をリフォームしよう」は「領域1.人と住まい」に関連する。高齢者の心身の特徴を考慮して高齢者が生活しやすい住まいを考えることで、安全・安心な住まいの条件を理解させる授業である。また、3時間目から5時間目の「高齢者が暮らしやすい住まいを提案しよう」は「領域3.住まいと社会」に関連する。高齢者が生活しやすいまちづくりを考える学習を通して、地域の環境に配慮して生活を工夫しようとする態度を養う。

#### その他特記事項

本授業1時間目に行う高齢者疑似体験は、高齢者が暮らしやすい住まい・まちの考える上で、実感を伴う思考を促すための重要な体験である。助成金は疑似体験に用いる高齢者体験器具の購入に充てたいと考えている。

※ページが複数枚になってもかまいません。

※他に添付資料がありましたらお付けください。